

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100681		
法人名	特定非営利活動法人シルバーの森夕照苑		
事業所名	シルバーの森夕照苑		
所在地	大津市秋葉台6番33号		
自己評価作成日	平成25年8月29日	評価結果市町村受理日	平成25年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節に応じた食材使用し、今までの生活の中で感じてこられた季節感を味わってもらえるようにしている。 ・開設以来、夕食後每晚(1年を通して)、利用者さんの安眠につながればと、全員の足浴を行っている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成25年9月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

健康で普通の暮らしをすることを目指している。協力医と話し合いの上薬に頼るのではなく排泄や排便を自然に行えるようにトイレで気張るための道具を設置したり、毎日の足浴で健康状態を観察しより良い睡眠を導入する工夫をしている。毎日行なう健康体操は利用者本来の身体能力を保つための1つである。献立表にとらわれることなくその日の食材の入荷状況に合わせ臨機応変に変更している。例えば魚屋から貝柱が届いた場合はそれをメインに事業所の庭にできたゴーヤを使ってスープや酢の物、季節の巨峰などを組み合わせている。このような創意工夫により家庭的な温かみのある食事になっている。居間でははがきサイズのトランプをしたり、せっせっせと童謡に合わせて仲良く手を打ちあったり、利用者が紙芝居を読んでみんなで歌って楽しんでいる。ここでの生活の主体は利用者である。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護計画の話し合い時、ケアに対してどうなのか悩むときがあるが、理念である原点に戻り利用者さんにとってどうなのかを重ね合わせ、「私らしく穏やかに暮らす」ということを、スタッフ会議で考えている	理念「私らしく穏やかに暮らす」は玄関横の目につきやすい場所に掲示している。理念は夕照苑便りや利用者の近況報告書にも記載している	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に利用者さんに参加していただくよう努力している(カラオケ教室) また、毎月発行している夕照苑だよりを自治会の回覧に入れてもらっている	夕照苑だよりでグループホームの住人を知ってもらい、顔なじみになれるよう努力している。自治会に寄付をお願いして古いタオルなどを貰い清拭用の使い捨てにしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や散歩、受診時などに、認知症の方が穏やかにされている様子などを見ていただき、地域の方にグループホームの存在を知ってもらっている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	次から次へ困ったことが発生したとき、推進会議で相談し沢山の意見をもらっている また、2ヶ月に一回必ず会議をおこない、その時々で貴重な意見を聴き、議事録にはすべて記録し、議事録はスタッフに回覧しサインをもらっている 家族の欠席が多いが、引き続き参加を呼びかけている	出席者は民生委員、近隣の住民、包括センター、行政書士、事業所側である。提案により体操の指導を受けるようになった。家族支援の通院時に受診状況報告書を貰い職員と情報の共有ができるようになった。	利用者や家族の参加が多くなるように取り組んでほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	よりよいグループホームを目指すため何事においても指導をいただいている 現在当事業所は移転に当たり、市担当課に場所やその他のことを相談している また、大津市介護保険課が窓口であり、事故の問題、利用者さんの難しい問題点や課題があれば、相談し指導してもらっている	日常的な運営やサービス向上の課題は介護保険課と相談している。現在の建物を立ち退かなければならなくなったので、移転先のことでも相談に乗って貰っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことが前提であり、職員には研修などに参加させるよう心がけている また、二点柵に絶対対ならないことが大事であり、玄関には家族の希望でセンサーを取り付け、鍵を掛けない時も開放的にしている 外に出られたがる時は、無理矢理苑内に戻さず散歩するなどにつき添い、一巡するようしている	居間やキッチンが2階にある。1階に居室があり出入りの様子が分かりにくいので玄関にセンサーを設置している。施錠はしていない。職員は身体拘束セミナーを受講している。セミナーの報告書を職員に回覧し受講できなかった職員も共有している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待しないよう伝えても理解が難しく「そんなことわかっている」と職員の言葉が出るが、虐待をしていいのか 悪いのか判断に悩むケースが多く、「自分にされて嫌なことはやめましょう」と単純な言葉で指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、苑内で成年後見制度を利用されている方がおられる。親族が保佐人に就任しておられるのであるが、月1回のスタッフ会議において、その人らしい権利が守られるように話し合っている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一つ一つ丁寧に説明し、家族に確認をとりながら、同意もいただきながらおこなっている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、意見箱を事務所横に設置したり、家族来訪時に直接たずねるなど、家族からの意見は貴重であり、その意見をひもときサービス改善につなげている。苦情の申立については、公的機関としての窓口案内を重要事項説明時におこなっている。家族の方へ、毎月末届けるお手紙に「面会にきてくださるのを待っております」と添えている	日常的には来訪時などの機会に苦情や要望がないかを尋ねるようにしている。運営推進会議に家族が出席したときに意見や希望を出している。家族からリビングのテーブルと椅子やトイレの前傾ボードの寄付があった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的に職員全員で会議をおこない、意見が出る都度改善に努力し、管理者に意見が言いやすい雰囲気作りをしている。また、勤務体制は職員の希望を出来る限りかなえている	管理者、職員共に日頃から思ったことを気軽に話し合っている。管理者は職員の意見を取り入れ細かく勤務シフトの調整をして、家庭と仕事の両立をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	管理者も積極的に介護現場に入り、職員と同様の仕事をおこない、職員に残業をさせないことや介護以外でも料理や薬の管理を任せ一人一人に責任を持たせるなど、職場の雰囲気作りに努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市主催の外部研修に参加させ、苑内では接遇や薬(認知症の薬)の管理、防火訓練など実施している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所として淡海グループホーム連絡協議会に加盟し、現在他施設との交流をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートの内容を熟知し、利用者さんとコミュニケーションをとる際、知人や趣味などについて少しずつ話していくことで「私のことをこんなに知っていてくれる」という安心感や信頼感を持ってもらうよう努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初から本音で話してもらうことは無理であるが、こちらから一生懸命語りかけることで理解してもらえることもある		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートを熟知し、十分に観察をおこない、家族と話し合うことでヒントを得られれば必要な支援を見つけることができる		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る仕事をしていただくことで、この仕事は私の役割と思ってもらい、社会に参加し、生きていく喜びを感じてもらうことを目指している。また、職員は、その仕事に対し「ありがとう」と必ず言葉をかけている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、夕照苑だよりや近江報告を送付し苑での生活の様子を知っていただき、行事や記念日に家族とのふれあいの場を持ってもらえるよう努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	フェイスシートに基づき、生活歴や交友関係などコミュニケーションをとることで、愛用の品物を持ってこられたり、学生時代の友人やご近所の方、お茶のお弟子さんなどが訪ねてこられると大歓迎している。また、元気で生活しておられることを知ってもらうため、夕照苑だよりを送付することもある。	友人の訪問を歓迎している。現状を知ってもらえるよう友人や知人にも夕照苑便りを送付している。利用者の希望や思い出の場所やホテルに電車に乗って行くこともある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの日々の様子を観察し、人間関係が円満に過ごせるよう職員同士が情報を共有し、席を変えるなど必要な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院時は、お見舞いに行ったり、他施設に移られた時は、電話で様子を観察うかがったりしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんと家族の思いを聴き、出来る限り希望に応えられるよう努めている。また、職員は一人一人の性格などを把握しどんな場合でもその人に合わせられるよう意向に添った支援をしている	入所時の生活支援計画書作成の際、本人と家族の希望を聞いている。日常的にも職員が寄り添うことでその時その時のしたい事などを把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者さん、家族、担当ケアマネジャーから今までの生活歴等を聞き取り、家族も含めた担当者会議で全職員が情報を共有するよう努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん個人の能力や力量にあわせた家事仕事に参加してもらい、能力維持に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時等は、家族も含めた全職員参加の担当者会議を開きケアプランを作成し、モニタリングしている	入居時は本人、家族、職員を交えて介護支援専門員がケアプランを作成し、1か月後に見直し家族に説明している。変化がない場合は3か月毎に見直ししている。利用者および家族は承諾し署名押印している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、3ヶ月毎に会議を開き、意見を出し合いプランの見直しをしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者さんのニーズに基づき、マッサージ士を導入したり、体操講師やボランティアにも協力してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に運営推進会議に参加してもらい、現状を報告し、アドバイスをもらっている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医師の診察を希望される場合は、月2回受診してもらい、必要に応じて地域の中核病院と連携し対応している。また、かかりつけ医師を希望される場合は家族と受診してもらっている。協力医師の受診を強制しない	かかりつけ医への受診は家族が付き添う、職員への連絡方法は事業所へ受診状況報告書を提出してもらい家族と情報を共有している。日頃の健康指導は協力医である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在 日々バイタルチェックをおこない、職員間の連絡を密にしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の中核病院に入院してもらい、家族や医師、看護師と情報交換している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師や看護師が常駐していないため、終末期の対応はしていない。このことは、入所時に「緊急医療と対応について」という文書に基づき説明後契約しているが、実情は死の直前(1ヶ月程度前)まで当苑で支援しているケースが多い	利用者がグループで自立した生活を楽しむことを重視し、終末期の看取りの支援まではしない方針である。「緊急医療の対応と退所について」という文書に終末期の看取りの対応はできない、と記載し家族も同意している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に防火訓練や救命講習を受けている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害が発生した場合、近隣住民に協力依頼している。また、当苑の職員は消火器の取扱、避難誘導、火災警報装置を作動させての訓練を実施し、災害時の飲料水、食糧は3日分は保管している	近隣住民から協力により緊急連絡網に電話番号を記載している。利用者の人数や自立、車椅子の区分を近隣住民に知らせている。住民も参加し消防署の指導で通報や避難誘導の方法を学んだ。自主訓練もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報を利用者さんや家族、来訪者等の目にふれない場所に厳重に保管している また、職員は接遇や個人情報の保護に関する研修を受講させ、利用者さんの性格を把握し、言葉使いに配慮している	職員は介護職倫理、尊厳を守る介護についての研修を受け、その意義を理解して介護に当たっている。利用者への対応は暖かく穏やかである。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いを引き出すために、さりげなく歌を歌ったり、紙芝居をしたり、江州音頭を踊ったりする中で見つけ出している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々楽しく過ごしてもらえるよう、個々に興味を持つ歌、カルタ、ゲームや会話をしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室でのカットや風呂上がりの爪切り、季節にあった服装ができるよう配慮している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が料理にあたり、メニュー、調理に工夫を凝らしている。テーブルに職員が入り一緒に食事をとる。介助が必要な方は、準備後片付けなど職員の役割分担が決まっている	旬の食材を使うことを心がけメニューは変化に富んでいる。刻み食も提供している。職員も一緒に食事を楽しんでいる。利用者は全員が使った食器を拭いている。行事食や誕生日の外食も楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューや摂取量は、一目瞭然にわかるようにしている。水分も不足が生じないよう適度に湯飲みに注いでいる		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れは、自分でできる方のみ見守りながらおこなってもらい、全員の義歯を職員が洗浄し消毒している。義歯でない方は、食後歯磨きをするようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者さんの排泄パターンを知り、時間が来ると声かけをしてトイレで排泄できるよう気をつけている。夜間も同様の対応をしている	夜間も2～3回声をかけトイレに誘導している。失禁対策として布パンツにパットを使用している。おむつを使用している利用者はいない。部屋にポータブルトイレを置いている利用者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に便を排泄できることが最も良い状態であるが、思うように便が出ないときもある。そのようなときは、水分補給、時計回りで腹部のマッサージ、適度な運動を行うようにしている。食事では、食物繊維を摂取できるよう心がけている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は、全員隔日に入浴してもらうようにしている。その日の利用者さんの健康状態に応じて入浴してもらい、希望される方は必ず入浴してもらえるよう、また、拒否される場合は2～3日に1回程度になる	利用者の希望に沿った入浴を支援している。入浴を拒む利用者はいない。入浴回数は週2～3回である。日曜日は入浴できない。	日を決めて入浴剤を入れたり、楽しい音楽を聴きながら入浴するとよいのではないかと。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、足浴をおこなうことにより、安眠につなげている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服用薬は、担当職員が管理している。また、睡眠導入剤が必要な方は、時間を決めて服用してもらっている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を發揮してもらうための場面作りをしている。また、一般住民と一緒にカラオケ教室に参加している方もいる		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑の前が公園なので、散歩にでかけたり、四季折々を楽しんでもらうため、お花見、紅葉狩りなどに出かけ屋外での食事を楽しんでもらっている。また、お誕生日には、希望されるお店に出かけゆっくり食事を楽しんでもらっている	日常的には希望にそって茶臼山公園の車椅子散歩や近場のドライブなどの支援をしている。事業所の行事としては2～3人ずつ数回に分けて京阪電車で出かけている。行き先は大津歴史博物館や馴染み食の堂ホテルなどさまざまである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、個人のお金は預かっていない 本人が希望する者があれば、買い物に同伴し、当方で立て替え購入できるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在の利用者さんは、記憶を維持することが難しいため、自ら積極的に電話をされたり、手紙を書かれることはないが、年末には、家族宛の年賀状を作成してもらっている お友達や親族、お弟子さんから季節ごと絵手紙送られてくる		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事やレクリエーションなど利用者さん全員が集まるリビングは、窓から公園の緑を眺められ、季節感や日の昇降、天気が変わりやすく利用者さんもいろんな変化を報告してくれる	居間は整理整頓され清掃は行き届いている。使いやすい大きなテーブルが2つ置かれ利用者はそれを囲んでゆったりと過ごしている。窓からは茶臼山の桜や竹林など季節の移り変わりを楽しむことができる。風呂場やトイレも清潔である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルでは、気のあった者同士でお喋りに夢中になっている 時には話が加熱しすぎ職員が間に入って和をとることがある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた品物などを持参してもらい、自室においたり、家族が持参した写真を大切に沢山かざったり、すこしでも居心地良い部屋になるよう工夫している	ベッド、寝具、タンスは事業所が準備している。仏壇や家族の写真、縫いぐるみ、イスなどをもち込んで使い馴れた部屋らしくしている利用者がある。中には最初に準備されたものだけですっきりしている部屋もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほとんどの利用者さんが建物の間取りを理解し、自主的に動いている また、歩行が不安定な方は職員が付きそうなどし安全に配慮している		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(3)	定期に開催している運営推進会議への家族の参加が少ない	運営推進会議の開催日時を早期に計画し、家族が参加しやすいよう改善する	運営推進会議出席者(ご家族)の予定表を作成して、ご家族に配布する。その予定表を確認いただき、できる限り参加いただくよう促す。	12ヶ月
2	6	当苑利用者家族の訪問が少ないため、交流をもってもらおう。	家族との交流	季節の行事、誕生日会には、必ずご家族に声かけをし、来訪を促すよう努める。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。